

## 高齢透析患者における死因の分析

<sup>1)</sup> 長崎腎病院、<sup>2)</sup> 長崎腎クリニック

○原田孝司<sup>1)</sup>、宮崎健一<sup>1)</sup>、李 嘉明<sup>1)</sup>、橋口純一郎<sup>2)</sup>、船越 哲<sup>1)</sup>

### 【目的】

我が国においては、高齢透析患者が増加しており、特に高齢透析患者の死亡原因に関する詳細な報告は少ない。今回当院における高齢者の死亡原因に関して分析を行った。

### 【対象】

当院の最近 10 年間の死亡者：381 名のうち 65 歳以上の高齢者 316（男性：167、女性：159）名の死亡原因を調査した。高齢者を前期（65 歳～75 歳）、後期（75～85 歳）超高齢者（85 歳以上）の 3 期に分けて検討した。

### 【結果】

死亡患者はそれぞれ前期：90 名（28.5%）、後期：140 名（44.3%）、超高齢者：86 名（27.2%）であった。死亡原因の頻度は感染症 137 例（43.4%）、心不全 65 例（20.6%）、脳血管障害 21 例（6.7%）、呼吸不全 22 例（6.9%）、急性心筋梗塞 13 例（4.2%）、悪性腫瘍 12 例（3.8%）、その他悪液質、不整脈、突然死・窒息死、肺血栓・塞栓症などであった。後期および超高齢者において肺炎および心不全の頻度が高かった。悪性腫瘍は前・後期高齢で発症し亡くなっていた。

### 【結論・考察】

高齢者の死亡原因は後期・超高齢者で肺炎が重要な位置を占めており、誤嚥性肺炎の予防・対策が重要である。